

森林・林業用語の解説

行	用語	解説
あ	育成単層林	森林を構成する材木の一定のまとまりを一度に全部伐採し、人為により単一の樹冠層を構成する森林として成立させ維持する施業（育成単層林施業）が行われている森林
	育成複層林	森林を構成する林木を択伐等により部分的に伐採し、人為により複数樹冠層を構成する森林（施業の目的上一時的に単層とする森林を含む）として成立させ維持する施業（育成複層林施業）が行われている森林
か	皆伐	林木の一定のまとまりを一時に全部又は大部分伐採すること
	間伐	林分の混み具合に応じて、目的とする樹種の個体密度を調整する作業。一般に、除伐後、主伐までの間に育成目的に応じて間断的に行われる
	公益的機能	森林の有する機能のうち、木材等生産機能を除いた、水源かん養機能、山地災害防止機能、生活環境保全機能、保健文化機能をいう
	混交林	2種類以上の樹種が混在する森林のこと。ただし、ここでいう2種以上の樹種には林業に関係のない下木の類は含まれない
さ	資源の循環利用林	環境に対する負荷が少ない素材である木材の効率的生産を重視する森林をいう
	主伐	利用期に達した樹木を伐採し収穫すること。間伐と異なり、伐採後、次の世代の樹木の育成を伴う
	収量比数	平均樹高が同じ林分で最多密度の林分幹材積を1とした場合に、密度の低い林分の幹材積の比で表される。林分の密度管理に当たり重要な役割をもつ数値である

行	用語	解説
さ	樹冠	樹木の枝と葉の集まりをいい、上層の主に陽葉からなる部分 部分を陽樹冠、下層の主に陰葉からなる部分を陰樹冠という
	除伐	育成の対象となる樹木の育成を妨げる他の樹木を刈り払う作業。一般に、下刈りを終了してから、植栽木の枝葉が茂り、互いに接し合う状態になるまでの間に数回行われる
	森林施業	目的とする森林を造成及び維持するための造林、保育、間伐、伐採等の一連の森林に対する行為
	森林と人との共生林	生活環境保全機能又は保健文化機能を重視する森林。森林生態系の保全・生活環境の保全や森林空間の適切な利用を図るために設定される
	しんもちざい 心持材	1本の小丸太から1本の角材を製材したもの
	人工林	人為を加えて人工造林や天然更新で成立した森林
	人工造林	苗木の植栽、種子のまき付け、挿し木等の人為的な方法により森林を造成すること
	水源かん養機能	湧水や洪水を緩和するとともに、河川流量を一定以上に維持し、良質な水を供給する働き
	水土保持林	水源かん養機能又は山地災害防止機能を重視する森林。複層林への誘導を図るために設定される
	ぜんぱつ 漸伐	単層林において、成熟木を数回または十数回に分けて伐採すること
た	択伐	複層林等において、林木の一定のまとまりを部分的に伐採すること

行	用 語	解 説
た	天然林	主として天然の力によって造成された森林。天然林には、稚樹が不足する部分へ苗木を植栽するなど一部に人為を加えたもの（育成天然林）も含まれる
な	中仕立	間隔を開けて植栽をする方法
は	伐期齡	林木が成熟して伐採時期に達した林齡
	保安林	水源のかん養、土砂の流失その他災害の防備、レクリエーションの場の提供など特定の公共目的を達成するため、森林法に基づいて一定の制限（立木竹の伐採、土地の形質の変更などの制限、植栽の義務）が課せられている森林。保安林は、その指定の目的により17種類がある
	保健機能森林	森林の施業と公衆の利用に供する施設の整備を一体的に行うことにより、森林の保健機能の増進を図るべき森林。保健機能森林の区域は市町村森林整備計画において定められている
ま	密仕立	間隔を詰めて植栽をする方法
や	有用広葉樹	広葉樹のうち、建築材、家具材、薪炭材、薬用、食用果実等幅広い用途に利用されている樹木の総称
ら	林齡	森林の年齢。人工林では、苗木を植栽した年を1年生とし、以後、2年生、3年生と数える
	齡級	林齡を5年単位で区分したもの。 齡級は1～5年生、 齡級は6～10年生、以下同様に 齡級は11～15年生の林齡に該当する